

王子が岳の歴史

王子が岳という名前の由来については、いくつかの説がある。一説では、古代の朝鮮半島にあった百済王国から来た 8 人の王子がこの辺りの山に住んでいたという。王子が岳に王族が住んでいたかどうかは不明だが、瀬戸内海地域と 7 世紀の朝鮮半島との歴史的なつながりは事実である。

百済は 663 年に唐と新羅の連合軍に征服され、敗れた百済から多くの人々が日本に逃れてきた。難民のなかに、瀬戸内海沿岸に朝鮮式の城を築くための技術者や役人も含まれていた。これらの城は唐と新羅の同盟による侵略に備えて日本を守ることを目的としていた。

王子が岳という名称のもう一つの由来として、修験道という、神道や仏教の要素を含んだ古代の山岳信仰が考えられる。修験道の信者は山などの人里離れた厳しい環境の場所で精神修養を行うことで知られている。修験道の主要な巡礼路のいくつかには王子社と呼ばれる小さな神社が点在しており、中でも和歌山県の熊野古道が有名である。王子社は巡礼者の休憩所として、また礼拝の場として伝統的に利用されてきた。王子が岳とその周辺では複数の王子社の跡が発見されており、修験道の信者たちがこの山を修行の場としていた可能性が高いことを示唆している。修験者たちはおそらく、山腹の洞窟に身を寄せていたのでしょう。